

『出来ない事はしたくない』

子どもは好奇心旺盛！

チャレンジ精神の塊！と思っている大人は少なからずいると思います。

しかし、子どもだって新しいことに挑戦するには勇気がいるし、出来るだけ失敗したくないと思っています。

また、成長と共に出来ることも増える半面、まだ思うように身体が動かせないのも事実です。

この時期に運動に対して苦手意識をもってしまうと、大人になってもずっと苦手という可能性も出てきます。

この成長過程に子どもの「つまずき」に気付いてあげ、かえってプラスになるように働きかけてあげたいものですね。

運動がきらいという子の裏の思いは『出来ない事はしたくない』という事も多いです。

だから、出来る事を繰り返してあげましょう。

出来る、出来る、を繰り返し、もっとできる！！となるまで挑戦してみると、動きが良くなっていく事を子ども自身が感じられます。

何かが出来る出来ないよりも、運動に対する意欲を育てている事を優先したいです。

反対に、運動能力の高い子どもは、一見問題がないように思えますが、よく見ると運動の内容が偏っていたり、実は自信が持てずにいたりします。

安易に『得意な子』とラベルをはってしまうと、その子の中の「つまずき」を見逃しがちです。

「つまずき」にもっとも効果的なのは勝敗や出来る出来ないではなく、いかに身体を動かす事を楽しめるか。楽しささえあれば、子どもは夢中になれるのです。

そして、大人の関わり方もとても重要です。

時間の許す限り本人のしたい練習に付き合ったり、努力そのものを褒めてあげたり。

大人からの励ましは自己肯定感を育み、「つまずき」を乗り越える力になります。

他の子どもに出来る事が自分には出来ない。

これは子どもにとってもつらい体験です。

でもこの「つまずき」は克服すれば、大きな自信になり、これからの様々な「つまずき」にも立ち向かえる強さになります。

気付いてあげる事、楽しさを優先する事。

そして子どもの力を信じて、出来る事から挑戦し、しっかり励ましてあげて、遊びを通して身体だけでなく心を育ててあげて下さいね。